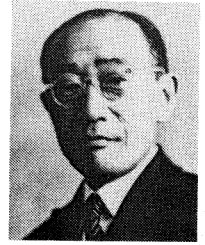


北村先輩 (1895~1964) は山形県米沢の産で若い頃すでに東京に在住し東京人として成人した。東京在住の郷土人との交際は親密で、愛郷の念強く、米沢藩武家屋敷独得の家庭菜園などを高く評価した。この家庭菜園はその後の都市菜園運動に大いに生かされる。自身の言では彼は初め医者を目指し独逸協会中学、一高を経たが、東大農学部を卒業したという。医学と農学とはともに生物系の学問であい通ずる。医学には治療と予防の部門があり、北村は後者につながる公園緑地にその理想を結晶させた。卒業後内務省の都市計画部門に就職し得たのは幸運であった。彼の奥深い研究欲は広く都市環境問題の見地から当時まだ未熟であった公園論を体系化し、若くしてその第一人者となった。さらに進んで緑地という新分野を開拓したが、それは彼の優れた先見性による。当時わが国の都市計画は米英系の学識が主力であったが、北村は独逸系に傾注し一家をなした。飯沼一省によれば初代の都市計画課長池田宏も独仏に堪能であったという。池田の自由空地論は新鮮であったが、北村の緑地論も都市計画的で新鮮であった。彼の独逸流の容積地域性は当時の都市計画第二掛主任菱田厚介技師等を刺激し市街地建築物法の中に空地地域制度 (1940) を確立させ、また区画

整理設計で独逸系のアヂケス法同様に耕地整理方式を準用し公園保留3%論を展開した。後者では論客兼岩伝一と激しく論争した。北村の都市計画的な公園、緑地への展開は1923年頃から始まる。先例を大伯林首都圏計画に求め、それを公式に結集させたのが1932年の



東京緑地計画であった。当時ようやく流行の兆しをみせた地方計画思潮を巧みに利用した成果であった。1935~6年の欧米視察では実地見聞を広め、独逸の国土計画をいち早く体得し、わが国国土計画の第一人者となった。1940年末には新設の企画院技師を兼ねた。1943年一切の公職を離れたが、戦後復職し戦災復興院・建設院・建設省の施設課長となり、1949年退官した。その後関係各協会等の理事をつとめた。また、東京農大、東大等の教授をつとめ役所と大学の交流の道をひらいた。当学会では石川栄耀とともに創立の原動力となり、ともに最初の副会長となった。やがて4代目会長に就任し、会長2年制を確立するなど学会の基礎固めに貢献した。

北村徳太郎（きたむら とくたろう）

木村三郎

略歴（北村徳太郎）

- 1895（明治28）年山形県に生まれる
- 1919（大正8）年東京帝国大学農学部卒
- 1919（大正10）年内務省大臣官房都市計画課勤務
- 1940（昭和15）年企画院技師
- 1949（昭和24）年建設省施設課長
- 1951（昭和26）～1956（昭和31）年度日本都市計画学会副会長
- 1952（昭和27）年東京大学農学部教授
- 1956（昭和31）年全国市長会研究員、各地の都市計画・公園計画を指導
- 1957（昭和32）～1958（昭和33）年度日本都市計画学会会長
- 1964（昭和39）年逝去 勲三等瑞宝章授与



北村 徳太郎

北村先輩（1895～1964）は山形県米沢の産で若い頃すでに東京に在住し東京人として成人した。東京在住の郷土人との交際は親密で、愛郷の念強く、米沢藩武家屋敷独特の家庭菜園などを高く評価した。この家庭菜園はその後の都市菜園運動に大いに生かされる。自身の言では彼は初め医者を目指し独逸協会中学、一高を経たが、東大農学部を卒業したという。医学と農学とはともに生物系の学問であい通ずる。医学には治療と予防の部門があり、北村は後者につながる公園緑地にその理想を結晶させた。

卒業後内務省の都市計画部門に就職し得たのは幸運であった。彼の奥深い研究欲は広く都市環境問題の見地から当時まだ未熟であった公園論を体系化し、若くしてその第一人者となった。さらに進んで緑地という新分野を開拓したが、それは彼の優れた先見性による。当時わが国の都市計画は米英系の学識が主力であったが、北村は独逸系に傾注し一家をなした。飯沼一省によれば初代の都市計画課長池田宏も独仏に堪能であったという。池田の自由空地論は新鮮であったが、北村の緑地論も都市計画的で新鮮であった。彼の独逸流の容積地域制は当時の都市計画第二掛主任菱田厚介技師等を刺激し市街地建築物法の中に空地地域制度（1940）を確立させ、また区画整理設計で独逸系のアヂケス法同様に耕地整理方式を準用し公園保

留3%論を展開した。後者では論客兼岩伝一と激しく論争した。北村の都市計画的な公園、緑地への展開は1923年頃から始まる。先例を大伯林首都圏計画に求め、それを公式に結集させたのが1932年の東京緑地計画であった。当時ようやく流行の兆しをみせた地方計画思潮を巧みに利用した成果であった。1935～6年の欧米視察では実地見聞を広め、独逸の国土計画をいち早く体得し、わが国国土計画の第一人者となった。

1940年末には新設の企画院技師を兼ねた。1943年一切の公職を離れたが、戦後復職し戦災復興院・建設院・建設省の施設課長となり、1949年退官した。その後関係各協会等の理事をつとめた。また、東京農大、東大等の教授をつとめ役所と大学の交流の道をひらいた。当学会では石川栄耀とともに創立の原動力となり、それぞれ最初の副会長となった。やがて4代目会長に就任し、会長2年制を確立するなど学会の基礎固めに貢献した。